

教科・科目	家庭・カラーライフデザイン	単位数	4(前期2+後期2)		
		ライン	4	開講時期	前期と後期

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	色への興味と理解を深め、生活に取り入れられている色彩の基本的知識や目的にあったカラーコーディネーションを実現するための技能について学び、豊かな衣食住生活の実現と産業における色彩の効果など、場面に応じた具体的な配色例を作る能力と態度を身に付けることができる。
使用教科書・副教材等	色彩検定®公式テキスト 3級編(色彩検定協会)

### 2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	色に関心を持ち、自分のイメージを色彩で表現しようとする意欲と態度を身に付けている。	観察 レポート 試験	20%
b. 思考・判断・表現	色彩の心理効果や配色が生活の商品に与える影響とその課題を見つけ、その解決を目指して創造的に思考を深め、創意工夫し表現することができる。	レポート 試験	20%
c. 技能	色の表示、色彩心理、色彩調和に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、配色イメージを美しく創造的にかつ適切に活用することができる。	レポート 試験	30%
d. 知識・理解	色のはたらきや役割についての基礎的・基本的な知識を身に付け、衣食住の生活や商品における色のイメージや配色を理解することができる。	レポート 試験	30%

### 3 学習計画

スクーリング回数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
			a	b	c	d
前期	① 色のはたらき 光と色①	色とは何か、その働きやコーディネイトについて関心を持ち、学ぼうとする。	○			
	② 光と色② 配色演習	光と色の関係や色の見え方について理解することができる。				○
	③	この回は実施されません				
	④ 色の表示①	色相や明度、彩度やトーンによる色の表し方を理解することができる。				○
	⑤ 色の表示② 配色演習	テーマに合わせたトーン配色ができる。			○	
	⑥ 色彩心理①	色の基本的印象への効果や色による連想や象徴について考察することができる。		○		
	⑦ 色彩心理② 配色演習	色の心理効果を用いて配色を行うことができる。			○	
後期	⑧ 色彩調和	色相配色やトーン配色など配色の基本的技法を理解することができる。				○
	⑨ 食事と色彩	彩りのよい食卓となるよう工夫してカラーコーディネイトすることができる。			○	
	⑩ ファッションと色彩①	ファッションに関するカラーコーディネイトについて関心を持ち、配色について考えようとする。	○			
	⑪ ファッションと色彩②	印象形成のためのトーン選びや配色について考察することができる。		○		
	⑫	この回は実施されません				
	⑬ インテリアと色彩①	インテリアにおける色の心理的効果や、カラーコーディネーションについて理解することができる。				○
	⑭ インテリアと色彩② 学習のまとめ	色や配色の知識をいかし、スペースに適したインテリアのカラーコーディネイトをすることができる。			○	

### 4 単位修得の条件(次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件のすべてを満たすことが必要。)

スクーリング	前期4回以上、後期4回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	各期1回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	前1回～前4回、後1回～後4回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回、後期1回、それぞれに合格すること。	

○ 学習の記録		担当の先生	先生		登録				
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日			
		回	提出日・合格		日S	月S	火S	木S	
前期	① 色のはたらき 光と色①	前1	1	2	4/23	-	4/25	4/20	
	3		4						
	② 光と色② 配色演習	前2	1	2	5/14	-	5/16	5/11	
	3		4						
	③	この回は実施されません							
	④ 色の表示①	前3	1	2	6/11	-	6/13	6/8	
	3		4						
	⑤ 色の表示② 配色演習				6/25	-	6/27	6/22	
⑥ 色彩心理①	前4	1	2	7/9	-	7/11	7/6		
3		4							
⑦ 色彩心理② 配色演習				7/23	-	7/25	7/20		
試験	レポート前1～前4の内容		本試験	追再試	8/20	-	8/22	8/17	
後期	⑧ 色彩調和	後1	1	2	10/8	-	10/10	10/5	
	3		4						
	⑨ 食事と色彩	後2	1	2	10/22	-	10/24	10/19	
	3		4						
	⑩ ファッションと色彩①	後3	1	2	11/5	-	11/7	11/9	
	3		4						
	⑪ ファッションと色彩②				11/19	-	11/21	11/16	
	⑫	この回は実施されません							
⑬ インテリアと色彩①	後4	1	2	12/17	-	12/19	12/14		
3		4							
⑭ インテリアと色彩② 学習のまとめ				1/7	-	1/9	1/4		
試験	レポート後1～後4の内容		本試験	追再試	1/21	-	1/23	1/18	

【先生からのメッセージ】

スクーリングでは、カラーコーディネートの基礎(色彩検定3級程度)を身に付けるための学習を行い、その知識をいかした色鉛筆や色紙・はさみ・のりなどを使った配色演習を行います。できるだけ毎回スクーリングに参加し、色彩に関する知識と表現力を身に付けましょう。また、色彩検定3級(実施時期は6月または11月/検定料7,000円)の受験を希望する場合は、本校では検定は実施していないため、各自で申し込み、受験してください。

教科・科目	家庭・消費生活	単位数	2(前期)		
		ライン	4	開講 時期	前期

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	経済社会の変化と消費生活、消費者の権利と責任、消費者と企業や行政との関わり及び連携の在り方などに関する知識を習得するとともに、持続可能な社会の形成、消費者の支援に必要な能力や態度を身に付け、それを活用することができる。
使用教科書・副教材等	高等学校用 消費生活(教育図書)

### 2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	生活産業の担い手として、消費者と企業や行政との連携について関心を持ち、持続可能なライフスタイルを確立しようとしている。	観察 レポート	15%
b. 思考・判断・表現	生活産業の担い手として、消費者と企業や行政と連携し、持続可能なライフスタイルの確立に向けて課題を見だし、思考を深め、適切に判断し、創意工夫し表現している。	レポート 試験	35%
c. 技能	経済社会の変化と消費生活、消費者の権利と責任、消費者と企業や行政とのかかわり及び連携の在り方などに関する技術を身に付けている。	レポート 試験	15%
d. 知識・理解	経済社会の変化と消費生活、消費者の権利と責任、消費者と企業や行政とのかかわり及び連携の在り方などに関する知識を身に付けている。	レポート 試験	35%

### 3 学習計画

スクーリング 回数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
			a	b	c	d
前期	① 社会を支える消費者 消費者被害と消費者の権利・責任	消費生活が複雑化、多様化していることを知るとともに、消費者の権利の重要性を理解することができる。				○
	② 消費生活の安全と自由 消費者の自立支援	消費者問題や消費者被害の救済に当たった消費者行政の役割や関連法規を理解することができる。				○
	③	この回は実施されません				
	④ 環境と消費者① (地球環境問題と私たちの生活)	消費生活上の環境問題について課題を発見し、環境保全を踏まえた消費生活について、主体的に取り組もうとする。	○			
	⑤ 環境と消費者② (持続可能な社会・エシカル消費)	持続可能な社会の形成に向けた国際社会や地域社会の取組に関連する情報について、収集・整理することができる。		○		
	⑥ 消費者契約と法① (多様化する販売方法と悪質商法)	契約に関する基礎的事項を理解するとともに、消費者被害の未然防止や解決に向けて、考察することができる。			○	
	⑦ 消費者契約と法② (多様化する支払方法)	多様化する決済手段の利便性とリスクについて思考を深め、適切に判断することができる。		○		
後期	⑧					
	⑨					
	⑩					
	⑪					
	⑫					
	⑬					
	⑭					

### 4 単位修得の条件(次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件のすべてを満たすことが必要。)

スクーリング	4回以上出席すること。
	放送視聴について 実施しない。
	教科別質問教室について 1回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	前1回～前6回のすべてに合格すること。
試験	前期1回に合格すること。

○ 学習の記録		担当の先生	先生		登録				
スクーリング回数	学 習 内 容	レポート				スクーリング実施日			
		回	提出日・合格		日S	月S	火S	木S	
前期	① 社会を支える消費者 消費者被害と消費者の権利・責任	前1	1 3	2 4	4/23	-	4/25	4/27	
	② 消費生活の安全と自由 消費者の自立支援	前2	1 3	2 4	5/14	-	5/16	5/18	
	③	この回は実施されません							
	④ 環境と消費者① (地球環境問題と私たちの生活)	前3	1 3	2 4	6/11	-	6/13	6/15	
	⑤ 環境と消費者② (持続可能な社会・エシカル消費)	前4	1 3	2 4	6/25	-	6/27	6/29	
	⑥ 消費者契約と法① (多様化する販売方法と悪質商法)	前5	1 3	2 4	7/9	-	7/11	7/13	
	⑦ 消費者契約と法② (多様化する支払方法)	前6	1 3	2 4	7/23	-	7/25	7/27	
	試験	レポート前1～前6の内容		本試験	追再試	8/27	-	8/29	8/24
後期	⑧								
	⑨								
	⑩								
	⑪								
	⑫								
	⑬								
	⑭								
	試験								

【先生からのメッセージ】

「消費生活」とは、生きていくために物やサービスを利用・消費する消費活動のことの総称です。私たち一人一人の消費者の行動は、経済社会の動向や消費者問題、環境問題等に深く関わっています。スクーリングでは、自分自身の消費行動を振り返るとともに、日頃から新聞やニュース、SNS等で取り上げられる様々な内容に着目し、自分にできること考察していきます。消費者として自立し、責任ある行動がとれるよう、日々課題を発見・解決できる力を身に付けていきましょう。

教科・科目	家庭・服飾手芸	単位数	2(後期)		
		ライン	4	開講 時期	後期

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	手芸の種類、特徴、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得するとともに、手芸品を創造的に製作し、服飾に活用することができる。
使用教科書・副教材等	令和版 はじめての「ぬう」と「あむ」+おさいほう（主婦の友社）

### 2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	手芸の種類や技法に関心を持ち、その充実・向上を目指して主体的に取り組もうとしている。	レポート 作品	35%
b. 思考・判断・表現	各種手芸の特徴や技法について課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し表現している。	レポート 試験	15%
c. 技能	各種手芸の技法や服飾に関する技術を身に付けている。	レポート 作品	35%
d. 知識・理解	各種手芸の技法や服飾に関する知識を身に付けている。	レポート 試験	15%

### 3 学習計画

スクーリング 回数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
			a	b	c	d	
前期	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
	⑦						
後期	⑧	手芸の種類と特徴①	基礎縫い、ボタン付け、刺し子、刺しゅう、編み物などの特徴について理解することができる。				○
	⑨	手芸の種類と特徴②	手芸製作に必要な基本的な知識や技術の習得を目指し、意欲的に取り組もうとする。	○			
	⑩	各種手芸の技法① 手芸品の製作	手芸の技法を身に付けるとともに、身近な生活への活用を想定しようとする。	○			
	⑪	各種手芸の技法② 手芸品の製作	手芸の技法について理解を深めるとともに、様々な技法を習得することができる。		○		
	⑫	この回は実施されません					
	⑬	各種手芸の技法③ 手芸品の製作	手芸の技法について理解を深めるとともに、様々な技法を習得することができる。			○	
	⑭	各種手芸の技法④ 手芸品の製作	身に付けた技術を活用し、創意工夫を凝らした作品を仕上げるることができる。			○	

### 4 単位修得の条件(次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件のすべてを満たすことが必要。)

スクーリング	後期4回以上出席すること。
	放送視聴について 実施しない。
	教科別質問教室について 1回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	後1回～後4回のすべてに合格すること。
試験	後期1回に合格すること。

○ 学習の記録		担当の先生	先生		登録					
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日				
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S	
前期	①									
	②									
	③									
	④									
	⑤									
	⑥									
	⑦									
	試験									
後期	⑧ 手芸の種類と特徴①	後1	1 3	2 4		10/8	-	10/10	10/12	
	⑨ 手芸の種類と特徴②	後2	1 3	2 4		10/22	-	10/24	10/26	
	⑩ 各種手芸の技法① 手芸品の製作	後3	1 3	2 4		11/5	-	11/7	11/2	
	⑪ 各種手芸の技法② 手芸品の製作					11/19	-	11/21	11/22	
	⑫	この回は実施されません								
	⑬ 各種手芸の技法③ 手芸品の製作	後4	1 3	2 4		12/17	-	12/19	12/21	
	⑭ 各種手芸の技法④ 手芸品の製作					1/7	-	1/9	1/11	
	試験	レポート後1～後4の内容		本試験	追再試		1/28	-	1/30	1/25

【先生からのメッセージ】

- スクーリングでは、針やはさみを使用し、作品製作を中心に行いますので、次の3点に注意してください。
- ① 作品製作に関わる留意点やポイント点などは、毎回のスクーリングで説明しますので休まず出席してください。
  - ② 材料を持ち帰っての作品製作は認めていません。指定した期限内に必ず提出できるようにしましょう。
  - ③ 受講には実習費がかかります。保護者とよく相談してください(欠席しても返金はできません)。

教科・科目	家庭・フードデザイン	単位数	4(前期2+後期2)		
		ライン	3	開講時期	前期と後期

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得するとともに、食生活を総合的にデザインし、食育の推進に向けて、積極的に取り組むことができる。
使用教科書・副教材等	フードデザイン 新訂版(実教出版)

### 2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	食生活に関する諸問題に関心をもち、食育の推進に向けて積極的に取り組もうとしている。	観察 レポート	15%
b. 思考・判断・表現	食生活を総合的に捉えて計画・実践するために課題を見だし、思考を深める。食育の推進に寄与するために、創意工夫し表現している。	レポート 試験	25%
c. 技能	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する技術を身に付けている。	レポート 実習	25%
d. 知識・理解	食事の意義と役割について理解し、豊かな食事を構成する要素として栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を身に付けている。	レポート 試験	35%

### 3 学習計画

スクーリング回数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
			a	b	c	d
前期	① 食生活と健康調理の基本	自分の食生活や日本の食生活の現状に関心をもち、改善に向け意欲的に取り組もうとする。	○			
	② 栄養素のはたらき①	各栄養素のはたらきを理解することができる。				○
	③ 食品の衛生と安全実習の事前学習	食品の衛生と安全に関する基本的な知識を習得することができる。				○
	④ フードデザイン実習①	食材の扱い方や衛生に配慮し、基礎的な調理技術を活用して調理することができる。			○	
	⑤ フードデザイン実習①	食材の扱い方や衛生に配慮し、基礎的な調理技術を活用して調理することができる。			○	
	⑥ 栄養素のはたらき②	各栄養素のはたらきを理解することができる。				○
	⑦ 食事計画	各ライフステージに応じた望ましい食生活を判断することができる。		○		
後期	⑧ 食品の特徴と性質	食品の特徴と性質について理解することができる。				○
	⑨ テーブルコーディネート①	食事のテーマにふさわしい献立や食卓の整え方、周囲の環境づくりに意欲的に取り組もうとする。	○			
	⑩ テーブルコーディネート②実習の事前学習	食事のテーマにふさわしいテーブルコーディネートを計画することができる。			○	
	⑪ フードデザイン実習②	食文化やテーブルコーディネートに配慮し、基礎的な調理技術を活用して調理することができる。			○	
	⑫ フードデザイン実習②	食文化やテーブルコーディネートに配慮し、基礎的な調理技術を活用して調理することができる。			○	
	⑬ 食品の生産と流通食品の選択と表示	多種多様な食品の中から、目的に応じた適切な判断をすることができる。		○		
	⑭ 食育	食についての課題を見だし、その解決を目指した食育活動について思考を深めることができる。		○		

### 4 単位修得の条件(次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件のすべてを満たすことが必要。)

スクーリング	前期4回以上、後期4回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	各期1回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	前1回～前6回、後1回～後6回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回、後期1回、それぞれに合格すること。	

○ 学習の記録		担当の先生	先生		登録				
スクーリング回数	学 習 内 容	レポート				スクーリング実施日			
		回	提出日・合格		日S	月S	火S	木S	
前期	① 食生活と健康調理の基本	前1	1 3	2 4	4/23	-	4/25	4/20	
	② 栄養素のはたらき①	前2	1 3	2 4	5/14	-	5/16	5/11	
	③ 食品の衛生と安全実習の事前学習	前3	1 3	2 4	5/28	-	5/30	5/25	
	④ フードデザイン実習①	前4	1 3	2 4	6/11	-	6/13	6/8	
	⑤ フードデザイン実習①				6/25	-	6/27	6/22	
	⑥ 栄養素のはたらき②	前5	1 3	2 4	7/9	-	7/11	7/6	
	⑦ 食事計画	前6	1 3	2 4	7/23	-	7/25	7/20	
	試験	レポート前1～前6の内容		本試験	追再試	8/20	-	8/22	8/17
後期	⑧ 食品の特徴と性質	後1	1 3	2 4	10/8	-	10/10	10/5	
	⑨ テーブルコーディネート①	後2	1 3	2 4	10/22	-	10/24	10/19	
	⑩ テーブルコーディネート②実習の事前学習	後3	1 3	2 4	11/5	-	11/7	11/9	
	⑪ フードデザイン実習②	後4	1 3	2 4	11/19	-	11/21	11/16	
	⑫ フードデザイン実習②				12/3	-	12/5	11/30	
	⑬ 食品の生産と流通食品の選択と表示	後5	1 3	2 4	12/17	-	12/19	12/14	
	⑭ 食育	後6	1 3	2 4	1/7	-	1/9	1/4	
試験	レポート後1～後6の内容		本試験	追再試	1/21	-	1/23	1/18	

【先生からのメッセージ】

実験・実習を行うため、積極的な取組が求められます。実習①は、スクーリング④・⑤の日程のうちいずれかに出席し、実習②は、スクーリング⑩・⑫のうちいずれかに出席してください。調理実習時には、エプロン・三角巾を持参してください。忘れた場合は受講を認めません。また、爪を切る、髪を結ぶ、アクセサリーを外すなど、衛生面に配慮して実習に臨みましょう。食物アレルギーのある人は命に関わるので、保護者や医師に相談してください。受講には実習費がかかります(欠席しても返金できません)。